



三道溝土山子及轉水湖炭礦

7

外務省

MT 17521 369

1-1805



附書類添附

大正六年四月卅日 接受

公信第三九號

大正六年四月十八日

第一課

在頭道清分館

主任外務書記官 廣前光雄



改送第

12072號

大正六年五月參日 發送済

外務大臣信學博士子爵本野一郎收

三道清石庄旗、状況、件

文書課長

大正六年五月一日 接受

本件之關、別紙、調査係条、
及、印、報告、候、教、員

不、要、返、回

在關嶼日本帝國總領事館頭道清分館

MT 17521 370

三道溝石炭礦状況

為館管内三道溝土山子及轉水湖石炭礦
 下ニハ既ニ世人ノ知ル事ナルガ土山子礦
 本年ヲ去ルニ二十年(元緒十六年)前或ハ支
 那人ノ発見スル事トナリ之ガ開礦ヲ見
 たりシニ途中義和團事件ノ為ニ蹉跎中
 止セラレタリモ、ナルカ其後元吉林省鑛務
 院并指元弟、所有ノ故ニ角来至子年
 宣本至トナリ之ヲ經營シ今日ニ及ハリ又
 轉水湖ノ最近十年前支那人常賦忠信、
 発見ニ係リ、即京口日之カ波屋ヲ設シ、
 宣三ノエト爾後三年ヲ經營スル者有リ

在開嶼日本帝國總領事館出張所分館

支那人孫宗山陳子雅ニ讓渡シ以テ今日
 二及ベリ、兩礦共々其經營ノ共同ノ
 下ニ資屋ヲ投入シタルニ由來石炭ノ用
 途ノ千變萬化、土切柄ナルガ故之レカ、
 踏ヲ行フニ業務擴張スルニ至リ、
 トシテ振興セヤリシガ明治四十年、
 出張所ノ間島龍井村ニ設立スル日本
 人ノ幸徑漸ク繁劇ニ事ルルニ至リ、
 用々亦近年劇増、收メ是ニ為時僅カ
 二十數名ニ過ヤサリシ土山子礦モ今
 支那人礦夫四十名ニ増加シ又轉水湖モ
 同様四十名、礦夫ヲ有シ、
 文化ニ事スル者トシテ、
 宣事セシメ土山子礦

MT 17521 372

MT 17521 371

一日採炭量は二万斤軽小湖一日採二万
 四五千斤位に達するも尚且つ一般供給
 う元々不足能ハサル、情況ニ在り而シテ
 其、土山子坑は、従前、旧式ノモノニシテ
 此ハ既ニ廢礦ニ做シ現在新ナル一坑ハ
 依リ採炭ヲ考シツ、アリ坑ハ、高向サハ
 約六尺横中約五尺位、横坑ニシテ山脈
 一延ハ坑内ハ二ノ道ニ分岐シ居レリ又輕水
 湖ハ坑口數ニ有シ其ニ作業上點火ハ
 設備アラワレト同時ニ危険義務防、設備
 トシテ石等採ルハヤキモノヤシ然レモ今日
 ニテ昔ノ一層モ危険發生、例ナク又
 死傷者ヲ出シタルト云ヘリ

在岡嶋日本帝國總領事館圖書室

一、土山子坑ニ付、調査ニ依リ、
 一、採炭本量、トシテ、一、固定シタル點
 一、採炭ノ方法、ハ、四十名ヲ二分
 一、其ノ半數ヲ、晝夜十二時間交代
 一、ニテ、採炭ノ其、監督トシテ、採炭
 一、名ノ至ニ、各ヲ以テ交代採炭、ト

MT 17521 374

MT 17521 373

七、價格五、運賃

ハ、炭價ハ一千斤ニ付普通運出炭之官吊
二千三百文又大炭炭一丁上等ノモ、ハ
同三千吊又トシテ販賣シツ、アルモ
有地ニ於ケル運出炭ノ實際販賣價ハ
官吊四千四百五十吊又ニ販賣セラレシ
アリ、尚運賃ハ一千斤ニ付販出者
迄十二吊又既井村迄二千六百吊又以
内ヲ要スルモ云フ

八、税金其他

税金ハ、販賣價額
ノ一割五分ノ額税ヲ為シ、ワ、アリ、又
内ニ於テ使用スル一丁ノ炭炭ハ
金吊事幣一丁ノ之ヲ貸與シ、

在岡崎日本帝國總領事館頭道清分館

九、採炭期間

毎年自十月至
翌年三月、即チ四月間ヲ採炭期
間トシ、夏年六月、月間、販賣ヤキト
道徳泥捲等、為メ、交通不便ナル
ヲ以テ採炭ヲ休業スルモ云フ
右ノ状況ニテ、今候カ、炭産ノ期、難
キモ、去冬、少、開礦ニ趣、若シ、左山、候
佐セラ、ル、カ、如キ、コト、ハ、到、ル、ハ、或、ハ、急、速
ノ、炭、産、ヲ、見、ル、コト、モ、ア、ラ、ン、カ、現、今、去、冬
ト、主、其、際、近、ニ、ア、ル、老、致、足、清、炭、反
ヲ、使、用、シ、テ、ア、リ、ト、最、後、之、炭、其、炭、相
要、ニ、シ、テ、三、道、沿、炭、ニ、有、ル、コト、取、等、

MT 17521 378

MT 17521 377

ナレハ近キ性来ニ於テ或ハ其ノ専用ヲ三
道清ノ炭礦ニ求ルニトハナレバシ
轉ル湖炭礦ニ於ケル以テハ其ノ炭
質ト大ニ異ナキヲ以テシテ其ノ書目略ス

在開嶋日本帝國總領事館頭道清分館

MT 17521 379

1-1805